

|       |               |
|-------|---------------|
| 従業員向け | 放課後等デイサービス評価表 |
|-------|---------------|

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

|         |    | チェック項目  | はい | いいえ | 工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など |
|---------|----|---|----|-----|---------------------------|
| 環境・体制整備 | 1  | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。  |    |     |                           |
|         | 2  | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。   |    |     |                           |
|         | 3  | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 |    |     |                           |
|         | 4  | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。                                 |    |     |                           |
|         | 5  | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。  |    |     |                           |
| 業務改善    | 6  | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。  |    |     |                           |
|         | 7  | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。                                  |    |     |                           |
|         | 8  | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。  |    |     |                           |
|         | 9  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。  |    |     |                           |
|         | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。                                     |    |     |                           |
|         | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。   |    |     |                           |
|         | 12 | 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。                |    |     |                           |
|         | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。  |    |     |                           |
|         | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。   |    |     |                           |
|         | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。   |    |     |                           |

|              |    |  |  |  |  |
|--------------|----|--|--|--|--|
| 適切な支援の提供     | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 |  |  |  |
|              | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。   |  |  |  |
|              | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。   |  |  |  |
|              | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。   |  |  |  |
|              | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。  |  |  |  |
|              | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。   |  |  |  |
|              | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。   |  |  |  |
|              | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。  |  |  |  |
|              | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。   |  |  |  |
|              | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。   |  |  |  |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。   |  |  |  |
|              | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。   |  |  |  |
|              | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。  |  |  |  |
|              | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。   |  |  |  |
|              | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。   |  |  |  |
|              | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。  |  |  |  |
|              | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。   |  |  |  |
|              | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。  |  |  |  |

|          |    |  |  |  |  |
|----------|----|--|--|--|--|
|          | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。   |  |  |  |
|          | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。               |  |  |  |
| 保護者への説明等 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。   |  |  |  |
|          | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。         |  |  |  |
|          | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。                                 |  |  |  |
|          | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。  |  |  |  |
|          | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。 |  |  |  |
|          | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。                       |  |  |  |
|          | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。                   |  |  |  |
|          | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。  |  |  |  |
|          | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。  |  |  |  |
|          | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。  |  |  |  |
| 非常時等の対応  | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。            |  |  |  |
|          | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。                                  |  |  |  |
|          | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。  |  |  |  |
|          | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。   |  |  |  |
|          | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。                               |  |  |  |
|          | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。                                  |  |  |  |
|          | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。  |  |  |  |

|    |  |  |  |  |
|----|--|--|--|--|
| 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。   |  |  |  |
| 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 |  |  |  |

保護者向け

## 放課後等デイサービス評価表

(保護者の皆さまへ)

○本評価表は、放課後等デイサービスを利用するお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」のいずれかに○を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

|                                      | チェック項目  | はい | どちらとも<br>いえない | いいえ | わからない | ご意見 |
|--------------------------------------|---|----|---------------|-----|-------|-----|
| 環境・<br>体制<br>整備                      | 1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 2 職員の配置数は適切であると思いますか。   |    |               |     |       |     |
|                                      | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。                                    |    |               |     |       |     |
|                                      | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。   |    |               |     |       |     |
| 適切<br>な<br>支<br>援<br>の<br>提<br>供     | 5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 6 事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。 |    |               |     |       |     |
|                                      | 9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 10 事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。   |    |               |     |       |     |
| 保<br>護<br>者<br>へ<br>の<br>説<br>明<br>等 | 12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。   |    |               |     |       |     |
|                                      | 15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。  |    |               |     |       |     |
|                                      | 18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。       |    |               |     |       |     |

|         |    |  |  |  |  |  |
|---------|----|--|--|--|--|--|
|         | 19 | こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 |  |  |  |  |
|         | 20 | こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。  |  |  |  |  |
|         | 21 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。                           |  |  |  |  |
|         | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。   |  |  |  |  |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。         |  |  |  |  |
|         | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。   |  |  |  |  |
|         | 25 | 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。                                     |  |  |  |  |
|         | 26 | 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。                                      |  |  |  |  |
| 満足度     | 27 | こどもは安心感をもって通所していますか。   |  |  |  |  |
|         | 28 | こどもは通所を楽しみにしていますか。   |  |  |  |  |
|         | 29 | 事業所の支援に満足していますか。   |  |  |  |  |

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「放課後等デイサービス計画（個別支援計画）」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                               |    |        |            |
|----------------|-------------------------------|----|--------|------------|
| ○事業所名          | スポーツコミュニケーションスクール カラフル・金沢 元菊校 |    |        |            |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年2月19日                    |    | ～      | 2025年2月24日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                        | 55 | (回答者数) | 26         |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年2月19日                    |    | ～      | 2025年2月24日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                        | 8名 | (回答者数) | 8名         |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年2月26日                    |    |        |            |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                                      | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等   |
|---|---|---|--|
| 1 | 学生一人ひとりの発達特性に応じたオーダーメイドプログラムを提供している。これにより、個別のニーズに基づいた支援が可能となり、お子さんの成長を効果的に促進する。 | サッカーやバスケットボールなど、スポーツを交えた多様な運動プログラムを導入し、楽しく身体を動かすことができるよう工夫している。これにより学生の興味を引き出し、積極的な参加を促す。 | 地域のスポーツクラブや学校と連携して合同イベントを企画し、地域全体での交流を促進する。コミュニティとの関係構築を強化することで、相互支援体制を構築する。 |
| 2 | 広大な運動場を完備しており、豊富なプログラムを実施できる環境を整えている。身体を大きく動かせるスペースがあることで、体力向上やストレス発散に寄与する。     | 親子で参加できるイベントを定期的で開催し、家族全員が楽しめるプログラムを提供している。親子の絆を深めるだけでなく、家庭でも取り入れられる運動方法を紹介。              | IT技術を活用して、オンラインでの活動や家庭でできる運動プログラムを提供する。デジタルプラットフォームによって、保護者とも情報を共有しやすくする。    |
| 3 | 発達特性を深く理解した職員が支援を行うことで、安心できる学習環境を提供している。専門知識を持つ職員がいることで、より精度の高いサポートが可能となる。      | 職員の専門知識と技術を高めるため、継続的な研修やワークショップを実施している。これにより、最新の支援方法を取り入れ、学生への支援の質を向上させている。               | 支援内容や子どもの成長状況を詳細に伝えるフィードバックシステムを構築し、保護者の不安や疑問を解消する。これにより、家庭と連携した支援を強化する。     |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                                    | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|---|---|---|
| 1 | 地域の小学校との連携が少ないため、教育現場におけるニーズや情報を十分に把握できておらず、支援の範囲が限られている。                     | 小学校との連携に向けたアプローチが十分でなく、互いの活動についての情報共有や交流の機会が少ないことが要因となっている。     | 小学校との連携を促進するための担当窓口を設置し、定期的な会議や情報交換を進める。連携を通じて、教育現場のニーズを把握し、より効果的な支援を提供する。  |
| 2 | 特定のスキルを持つ職員の確保が難しく、質の高い支援を提供する上で人手が足りない状況にある。職員の負担が大きくなることで、支援の質に影響が出る可能性がある。 | 発達支援に高度な専門性が求められるため、専門職の人材確保が難しい。特に地方や郊外では、資格や経験を持つスタッフが限られている。 | 職員の専門性を高めるための研修プログラムを拡充するとともに、適切な福利厚生を整えて職場環境を改善する。これにより、長期的な人材確保と質の向上を目指す。 |
| 3 | 室内設備が限られているため、悪天候時に運動プログラムを実施するのが難しい。活動内容が制限されることで、持続的なモチベーション維持に課題がある。       | 設備改善や人員拡充に必要な予算が限られており、十分な投資ができないことで、設備の老朽化や不足が課題となっている。        | 助成金の活用を通じて、施設改善に必要な資金を調達し、室内外の活動環境を整備する。これにより、どのような天候でも効果的な支援が提供できるようにする。   |

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 スポーツコミュニケーションスクール カラフル・金沢 元菊校

公表日 2025年 2月 28日

利用児童数 2025年 2月 28日 回収数 26

|                  | チェック項目  | 回答割合  |               |      |       | ご意見   | ご意見を踏まえた対応   |
|------------------|---|-------|---------------|------|-------|---|--|
|                  |   | はい    | どちらとも<br>いえない | いいえ  | わからない |   |  |
| 環境・<br>体制<br>整備  | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。  | 80.8% | 15.4%         | 3.8% |       | スタジアムは広いが、事務所やアパートは狭く感じる。前半、小学生の利用者さんが残っている場合は狭い、その後は十分と思います。夏場は暑いので熱中症が心配です。                   | お子さんの活動場所を仕切る道具や新たな運動場への移転を検討。                               |
|                  | 2 職員の配置数は適切であると思いますか。   | 76.9% | 19.2%         |      | 3.8%  | 送迎サービスもできるくらいに増員してほしい。職員の方のどの資格を有し、役割を担っているのかわからない。先生の人数が多く、安心して預けることができます。特性について詳しい方が少ない気がします。 | 職員がどの資格を有しているのか自己紹介ボードに記載し、必要に応じてスタッフの増員も検討。                 |
|                  | 3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。  | 65.4% | 30.8%         |      | 3.8%  |   |  |
|                  | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。   | 84.6% | 15.4%         |      |       | アパートは狭く閉塞感を感じ、スタジアムは気温の影響が大きすぎる。  | アパート移転の検討をし、冷暖房設備の設置を話し合う。                                   |
| 適切な<br>支援の<br>提供 | 5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。  | 84.6% | 11.5%         |      | 3.8%  | 子どもに合った支援をしていただけで感謝しています。   |  |
|                  | 6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。  | 92.3% |               |      | 7.7%  | まだ年末と雪の経験しかありませんが、直前に時間の変更が多いように感じます。   | 悪天候等によるプログラム時間の変更は少なくとも前日には保護者に連絡。                           |
|                  | 7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。   | 96.2% |               |      | 3.8%  |   |  |
|                  | 8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。 | 92.3% |               | 3.8% | 3.8%  |   |  |
|                  | 9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。  | 92.3% | 7.7%          |      |       |   |  |
|                  | 10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。  | 92.3% | 3.8%          |      | 3.8%  | 活動内容は素晴らしいのですが、特性に合っているかはまた少し違うこともあるかと思います。送迎が無いのも通いづらいので、定期的に通いにくくなることもあります。                   | お子さんと保護者のニーズをくみ取ったプログラム提供をできているかを確認・アップデートするため、定期的なミーティングを開催 |
|                  | 11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。   | 19.2% | 30.8%         | 7.7% | 42.3% |   |  |
| 保護者<br>への<br>説明等 | 12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。  | 88.5% | 7.7%          |      | 3.8%  |   |  |
|                  | 13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。  | 92.3% | 3.8%          | 3.8% |       |   |  |
|                  | 14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。   | 69.2% | 11.5%         |      | 19.2% |   |  |
|                  | 15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。  | 80.8% | 19.2%         |      |       |   |  |
|                  | 16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。  | 61.5% | 30.8%         |      | 7.7%  |   |  |
|                  | 17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。  | 88.5% | 3.8%          |      | 3.8%  | 特性に対する知識には人により偏りがありますが、一生懸命寄り添ってくれていると感じます。   | 障がい特性を学ぶ研修会を定期的に開催。  |
|                  | 18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。         | 50.0% | 15.4%         | 3.8% | 30.8% |   |  |
|                  | 19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。                               | 73.1% | 15.4%         |      | 11.5% |   |  |

|         |    |  |       |       |      |       |   |  |
|---------|----|--|-------|-------|------|-------|---|--|
|         | 20 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。  | 88.5% | 7.7%  | 3.8% |       |   |  |
|         | 21 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。                   | 84.6% | 11.5% |      | 3.8%  |   |  |
|         | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。   | 88.5% | 7.7%  |      | 3.8%  |   |  |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 57.7% | 15.4% |      | 26.9% |   |  |
|         | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。   | 38.5% | 15.4% |      | 46.2% |   |  |
|         | 25 | 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。                             | 73.1% | 15.4% |      | 11.5% |   |  |
|         | 26 | 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。                              | 69.2% | 3.8%  |      | 26.9% |   |  |
| 満足度     | 27 | 子どもは安心感をもって通所していますか。   | 92.3% | 3.8%  |      | 3.8%  |   |  |
|         | 28 | 子どもは通所を楽しみにしていますか。   | 80.8% | 19.2% |      |       | 行くを楽しんでいるが、家では行き渋っている。<br>今は、バスケットが好まなくて意欲低下していますが他は楽しんでいました。特にサッカーの時ははきっていました。       | お子さんと保護者のニーズをくみ取ったプログラム提供をできているかを確認・アップデートするため、定期的なミーティングを開催 |
|         | 29 | 事業所の支援に満足していますか。   | 80.8% | 19.2% |      |       | 長期休みのプログラムの開始時間がもう少し早いとありがたいです。<br>夏の冷房費や飲料水代金の負担がもう少し減るとありがたいです。利用日数が多いとかなりの金額になるので、 | プログラムの開始時間を要検討。保護者の実費については、助成金を申請するなど保護者負担が減るような施策を話し合う。     |

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名    |   | スポーツコミュニケーションスクール カラフル・金沢 元菊校  |      | 公表日                          |   | 2025年 2月 28日  |   |
|---------|---|--|------|------------------------------|---|---|---|
|         |   | チェック項目   |      | はい                           | いいえ   | 工夫している点   | 課題や改善すべき点   |
|         |   | 環境・体制整備  | 1    | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 75%   | 25%   | スペースの効率的な利用のため、パーテーションを使用して活動エリアを柔軟に変更できるようにしている。定員に応じたスペース確保を心がけ、過密状態を避ける工夫を行っている。 |
| 2       | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。   |  | 100% | 0%                           | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数を充実させている。  | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切である。  |   |
| 3       | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 |  | 75%  | 25%                          | 視覚的にわかりやすい図や表を掲示。   | さらに細やかな配慮が必要な児童への対応として、各障害特性に配慮した補助具の普及と配置を強化する。                        |   |
| 4       | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。                                 |  | 75%  | 25%                          | 日常的な消毒作業と清掃を職員が実施。  | 環境美化のために、利用者にも掃除活動への参加を促し、環境維持の重要性を学べる機会を設ける。                           |   |
| 5       | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。  |  | 75%  | 25%                          | 必要な場合には子どもが個室を利用できるようにし、集中や休息を図る場を提供。個別対応が必要なケースにはプライバシーを確保。                          | 個々のニーズに即した個別スペースの増設や、個室利用に関するルールの丁寧な周知が必要。                              |   |
| 業務改善    | 6   | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。   | 50%  | 50%                          | 定期的に職員全体での振り返り会議を設け、目標設定から成果の確認までを共有して、改善策の実行に反映。                                     | さらなる参画意識向上のため、PDCAサイクルの重要性についての理解を深める研修を導入。                             |   |
|         | 7   | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。   | 50%  | 50%                          | 保護者アンケートを実施し、そのフィードバックを活用してサービスの改善を行い、フィードバックの結果を透明性のある形で保護者に報告している。                  | より広範な意見収集のため、アンケートの頻度を増やす。  |   |
|         | 8   | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。   | 75%  | 25%                          | 職員は定期的に意見交換会を開催し、現場の声を吸い上げる仕組みを運用。意見を集約し、具体的な改善策に反映させている。                             | 意見収集の手法を多様化し、匿名性を確保しながらも意見交換が活発に行われるよう、組織風土の見直しが必要。                     |   |
|         | 9   | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。   | 50%  | 50%                          | 定期的な第三者による評価を受けて、報告をもとにした改善計画を策定。外部の視点を取り入れることで新たな視野を得ている。                            | 評価結果を職員全体で共有し、検討会を通じて具体的なアクションを計画する仕組みを強化するべき。                          |   |
|         | 10  | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。  | 75%  | 25%                          | 定期的に内外部の研修を実施し、職員のスキルと知識の向上を促進。現場での経験を取り入れたプログラムを用意。                                  | 研修内容が職員のニーズに合致しているかを確認し、研修後のフォローアップを充実させる必要がある。                         |   |
| 適切な支援の提 | 11  | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。  | 100% | 0%                           | 支援プログラムは定期的に更新し、その内容を親や関係者に周知するための説明会を開催している。プログラム内容は透明性をもって公開。                       | プログラム更新の際、保護者からのフィードバックを取り入れるシステムの整備をする。                                |   |
|         | 12  | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。   | 75%  | 25%                          | 継続的なアセスメントでこどものニーズを正確に把握し、対応した計画を作成。保護者とも話し合い、合意を得る形で計画を構築。                           | アセスメントの正確性向上のため、最新のアセスメントツールの活用と職員の研修強化が必要。                             |   |
|         | 13  | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。   | 75%  | 25%                          | 定期的なチームミーティングを行い、全職員が意見を交換しながら計画を策定している。これにより、計画が多角的な視点から検討され、子どもの最善の利益を考慮したものとなっている。 | 職員全員が積極的に参加しやすい雰囲気の出が必要。意見が出やすい環境作りや、ファシリテーションスキルを持つ職員の育成が求められる。        |   |
|         | 14  | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。  | 75%  | 25%                          | 計画をデジタル化し、職員全員がアクセス可能なプラットフォームで共有。情報伝達の迅速化を図っている。                                     | 計画を現場でどう実践しているかについてのフィードバックを得る仕組みが不十分。評価会の定期化とその結果を計画に反映させるプロセスを整備する。   |   |
|         | 15  | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。  | 75%  | 25%                          | 標準化されたアセスメントツールを使用し、日々の観察記録を通じて個々の状況を把握。フォーマルとインフォーマルな手法を併用している。                      | アセスメント結果の活用が計画作成時に十分に反映されていない場合がある。結果をもとにした改善プランの策定と、それに基づくアクションの実施が必要。 |   |
|         | 16  | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 75%  | 25%                          | 放課後等デイサービスガイドラインに基づいて、個別支援計画を作成し、本人支援、家族支援、移行支援、地域支援を網羅した支援項目を設定。                     | 支援内容の具体化が足りない場合がある。ガイドラインに関する研修を定期的に行い、支援内容の具体化を促進する。                   |   |
|         | 17  | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。   | 75%  | 25%                          | 多様な意見を集めるため、職員同士のチーム立案を行っている。バリエーション豊かなプログラムを提供するため、定期的にアイデアを出し合って新鮮さを保つ。             | チーム内でのコミュニケーションを円滑にするため、チームビルディング活動やクロストレーニングを行い、意見の多様性を活かす。            |   |
|         | 18  | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。   | 100% | 0%                           | 固定化を防ぐため、毎月異なるテーマを設定し、新しいアクティビティを導入する。そのために過去の活動の分析を行い、改善点を常に探している。                   | 参加者のフィードバックを基にした随時更新の仕組みを作り、継続的な改善を促進する。                                |   |

|              |    |  |      |     |   |  |
|--------------|----|--|------|-----|---|--|
| 供            | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。                           | 100% | 0%  | こどもの発達段階に応じて個別と集団を組み合わせ活動計画し、多様な経験を通じた成長を支援。活動の評価を通じて最適な組合せを調整。     | 個々の活動が他の活動とどのようにつながりがあるのかを明確化する。   |
|              | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。                    | 75%  | 25% | 毎日、支援開始前に職員間で役割と支援内容について打ち合わせし、終了後には振り返りを行うことで、連携と反省を強化している。        | さらに効率的な議論の進行を図るため、議事録を電子化し、振り返りポイントを可視化することで改善策を速やかに実行できる環境を整える。               |
|              | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。                             | 75%  | 25% | 支援終了後には、翌日職員間で必ず打合せを行い、支援の振り返りを行っている。                               | 振り返りポイントを具体的な改善行動に繋げられる仕組みを考える。  |
|              | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。   | 75%  | 25% | モバイルツールを用いた記録を採用し、迅速かつ正確にデータを残すことで支援内容の改善に役立っている。                   | データ活用の意識を高めるため、定期的なレビューと評価を行い、記録の精度向上と活用促進を図る。                                 |
|              | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。                              | 100% | 0%  | 定期的なモニタリングを実施し、支援計画の適切性を確認。必要に応じた改善を速やかにを行い、利用者に最適な支援を提供。           | モニタリング体制のさらなる組織化を図り、データ主導の見直し制度の強化を進める。  |
|              | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。                                       | 100% | 0%  | ガイドラインにある「4つの基本活動」を週替わりや月替わりで組み合わせ、子どもたちが多様な体験を得られるようにしている。         | 活動の効果を客観的に評価する仕組みが不足。活動後の評価シートやアンケートを導入し、その結果を次の活動に反映していく必要がある。                |
|              | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促す力や育てるための支援を行っているか。                               | 75%  | 25% | 児童が自分で選択できる活動を多く取り入れ、自己決定を促すための工夫をしている。選択肢を豊富にすることで興味を引き出している。      | 選択の場面でサポートが不足することがあり、選択の意義を理解するための説明やガイダンスを強化する必要がある。                          |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。                           | 100% | 0%  | 障害児相談支援事業所や関係機関の会議には、子どもの特性をよく理解したもつとも適した職員が参加し、情報共有を円滑にしている。       | 参加者のローテーションを導入して、全職員がその役割や責任について理解の深度を増す。                                      |
|              | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。                         | 100% | 0%  | 医療、教育、福祉施設との定期的な情報交換を行い、連携を強化する仕組みを整え、支援活動を多面的にサポート。                | フォーマルなコミュニケーション体制を構築し、情報の一貫性を保つための手段を標準化する。                                    |
|              | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。            | 75%  | 25% | 学校との連携会議を定期的に開催し、年間計画や重要なイベントについて情報を共有する。特に下校時刻や送迎などの日常連絡を迅速に行っている。 | 緊急時の情報共有がスムーズでないケースがあるため、連絡フローを見直し、連絡手段の多様化を考慮する。                              |
|              | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。                           | 50%  | 50% | 就学前に関わった保育所や児童発達支援事業所と密に情報交換を行い、相互理解を深めている。                         | 情報共有のタイミングが適切でない場合がある。一定のスケジュールを設定し、計画的かつ持続的に情報交流を行う必要がある。                     |
|              | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。                   | 50%  | 50% | 卒業時期が近づいたら、過去の支援内容をまとめて福祉サービス事業所に提供するプロセスを確立している。                   | 提供情報の整備と管理が不十分になりがち。情報整理役を専任で配置し、いつでも内容が把握できる体制を整える。                           |
|              | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。                             | 50%  | 50% | 地域の支援センターと連携し、必要に応じてスーパーバイズや助言を受けたことがある。                            | 助言内容を具体的な行動計画に落とし込み、成果を定期的に検証して次のステップに繋げる。                                     |
|              | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。   | 50%  | 50% | 放課後児童クラブや児童館との交流イベントを活性化させ、地元の子どもたちと一緒に活動する場を確保している。                | 参加者の偏りを減らすために、広報活動を強化し、より広範な参加を促すアプローチを考えるべき。                                  |
|              | 33 | (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。  | 100% | 0%  | 自立支援協議会や地域の子育て会議に積極的に参加し、地域ネットワークを形成。そこで得た知識を事業所運営に反映。              | 会議での情報共有が一方にならないよう、意見交換の場として積極的な発言を奨励する。                                       |
|              | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。                                   | 75%  | 25% | こどもの状況について、定期的な面談や通信を通じて保護者と情報を共有し、理解を深め合う機会を設けている。                 | 情報共有方法の見直しを行い、デジタルメディアを活用した情報伝達を強化する。  |
|              | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。       | 75%  | 25% | 家族に向けたペアレント・トレーニングや情報提供会を実施する予定。                                    | 参加者のニーズを把握し、研修内容をより実践的で役に立つものにするための評価を行う予定。                                    |
|              | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。   | 100% | 0%  | 事業内容や利用料金などの詳細をわかりやすく説明し、パンフレットや動画説明での視覚化を行っている。                    | 継続的な説明内容の見直しを行い、より分かりやすい表現にする。   |
|              | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 75%  | 25% | 子どもや保護者の意向を定期的に確認し、その内容を計画に反映。面談やアンケートを通じて要望を吸い上げている。               | 意向を反映するプロセスが不明瞭な場合があるため、意見がどのように計画に反映されたかを振り返る機会を設定する。                         |
|              | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。                         | 100% | 0%  | 作成した計画について保護者に丁寧に説明し、必要に応じてフィードバックを受け、正式に同意を得るプロセスを整備。              | 保護者が計画内容を理解しやすいよう、簡潔で分かりやすい資料を準備し、説明会を定期化する。フィードバックの質を高めるために、理解度を確かめる質問時間を設ける。 |
|              | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。                                      | 100% | 0%  | 家族の悩みに迅速に答えるため、スタッフによる相談窓口を設け、継続的な面談を行っている。                         | 制限された相談時間を増やし、オンラインでの相談受付体制を確立し、アクセスの改善に努める。                                   |

|          |  |  |      |   |  |   |
|----------|--|--|------|---|--|---|
| 保護者への説明等 | 40   | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | 100% | 0%  | 父母会や保護者会の開催を通じて、保護者同士の交流を促進し、共通の課題について話し合える場を提供。     | イベントのバリエーションを増やし、きょうだい同士の交流の機会も積極的に提供するためのプログラムを開発。   |
|          | 41   | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。                       | 100% | 0%  | 相談や申入れに対する素早い対応を実現するための体制を整備し、これを家族に広く周知。            | 相談対応の質を上げるため、職員のトレーニングを充実させ、相談プロセスのフォーマットを整える。        |
|          | 42   | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。                   | 75%  | 25%   | 定期的な通信の発行や、HPやSNSの活用により、最新の活動状況や行事予定を発信する仕組みを整えた。    | コンテンツの更新頻度を上げるとともに、双方向コミュニケーションを可能にするプラットフォームの活用を進める。 |
|          | 43   | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。  | 75%  | 25%   | 個人情報保護方針を明確化し、職員が個人情報を適切に取り扱うための研修を定期的実施。            | データ漏洩対策の強化と、情報管理システムの更新・統一を検討する必要がある。                 |
|          | 44   | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。  | 75%  | 25%   | 障害の特性に応じたコミュニケーション手段を提供し、意思の疎通を図るための工夫を行っている。        | コミュニケーションスキルを全職員が向上させるために、特化した研修やワークショップを開催。          |
|          | 45   | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。  | 75%  | 25%   | 地域住民を招いたイベントを開催し、事業所の取り組みに対する理解促進と交流の機会を作っている。       | 参加率向上のためのプロモーション活動を強化し、地域のニーズを反映した企画を積極的に導入する。        |
| 非常時等の対応  | 46   | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。            | 100% | 0%  | 事故防止、防災関連のマニュアルを整備し、職員と保護者への周知と定期的な訓練を実施。            | 訓練内容を毎回更新し、実際の事例を用いたより実践的な訓練を行うことで、対応力を強化。            |
|          | 47   | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。                                  | 100% | 0%  | BCPを策定し、非常災害への備えを整え、定期的に避難訓練やシミュレーションを行っている。         | 訓練後のフィードバック制度を構築し、適宜BCPを見直し、関係者への周知徹底を図る。             |
|          | 48   | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。  | 100% | 0%  | 服薬や予防接種、てんかん発作など、子どもの健康情報を事前に把握・管理し、必要な対応を迅速に行っている。  | 継続的な健康情報のアップデートが可能なシステムを導入し、情報の精度向上に努める。              |
|          | 49   | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。   | 100% | 0%  | 医師の指示書に基づき、食物アレルギーのある子どもに対する適切な対応を実施し、全職員で情報を共有。     | アレルギー対応の知識を職員全員に周知・徹底し、新しく発生するケースに対する柔軟な対応力を養う。       |
|          | 50   | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。                               | 100% | 0%  | 安全管理のための計画を策定し、職員への研修や訓練を通じて徹底している。安全対策は定期的に見直し。     | 全職員の中で安全意識を高めるため、シナリオ型訓練や危機管理への直接的な教育を強化。             |
|          | 51   | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。                                  | 100% | 0%  | 安全計画を家族にも周知し、協力の下で子どもの安全を確保する取り組みを行っている。             | 家庭との情報共有ツールの改善を行い、緊急時の統一した対応が図れる連絡網を整備。               |
|          | 52   | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。  | 100% | 0%  | 事業所内でヒヤリハット事例を共有し、再発防止策について職員全員で意見を取り入れて検討。          | デジタルツールを活用したヒヤリハット管理システムを導入し、事例の分析と予防策をより迅速に取り入れる。    |
|          | 53   | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。   | 100% | 0%  | 虐待防止意識を高めるための研修を定期的に行い、職員による適切な対応を促している。             | 模擬ケースを取り入れた研修による実践的な学習の機会を増やし、職員間での意識をさらに高める          |
| 54       | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 100%   | 0%   | 身体拘束のガイドラインを組織内で明確化し、子どもや保護者に事前に説明し、了解を得たうえで対応している。 | 身体拘束に関する倫理的視点を重視した定期的な見直しと、保護者からの意見収集を行い、対応の透明性を高める。 |   |